

米マイクロソフトの閲覧ソフト「インターネット・エクスプローラー（IE）」に欠陥が見つかりました。このソフトを使ってホームページ（HP）を閲覧すると、パソコンがコンピュータウイルスに感染する危険性があります。利用者は多く、被害が世界に広がる恐れが出ています。

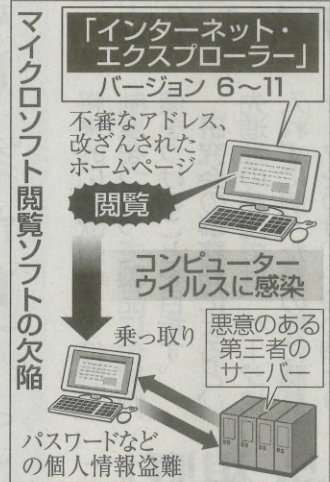
Q IEとは。

A マイクロソフトの基本ソフト（OS）「ウィンドウズ」が搭載されたパソコンに、あらかじめ入っている閲覧ソフトです。日本国内のパソコン利用者のうち、約5割がIEを使っていると言われています。

IEは順次、新しいバージョンに更新されていますが、欠陥はこのうち「6」から最新版の「11」で見つかりました。このため4月28日には、米国の国土安全保障省がIEの使用を一時中止するよう警告しました。

日本の独立行政法人「情報処理推進機構」も注意を呼びかけ

## シェア5割のIE何が危険？



## ウイルス感染／PC乗っ取り

覧すると、ウイルスを送り込まれてしまいます。交通機関などの公式HPも改ざんされて、わざわざ掛けられている場合があります。

感染すると、気付かないうちにパソコンを乗っ取られたり、IDやパスワードなどの個人情報報が盗まれて、ネット銀行の口座から預金を不正に引き出されたりする危険性があります。

A 根本的な解決には、マイクロソフトが配布する予定の「セキュリティ更新プログラム」をパソコンに取り込む必要があります。米国土安全保障省などは当面、米グーグルの「クローム」や米モジラ財団の「ファイアーフォックス」など別の閲覧ソフトを使うよう勧めています。

ています。機構によると、4月30日午後6時の時点で、国内での被害は確認されていません。

Q どんな欠陥なのですか。

A 正常な閲覧ソフトならウイルスが入り込む余地はありません。問題となったIEにはウイルスへの防御が弱い部分があります。ここを通じてウイルスが侵入する可能性があります。

Q どんな問題が想定されるのですか。

A 悪意のある第三者がつくった不審なアドレスのHPを開

座から預金を不正に引き出されたりする危険性があります。

Q マイクロソフトの対応は。

A パソコンが安全かどうかの監視を強化する機能の活用など、いくつかの応急措置を発表しています。ただ、感染のリスクをゼロにすることはできません。専門的な措置のため、パソコンに詳しくない人には対応が難しそうです。

Q どうすればいいのですか。

Q すでにサポートがなくなったOS「XP」はどうですか。

A 4月9日に更新プログラムの配布が終了したので、OS自体がウイルスの攻撃に無防備な状態です。その上でIEを使用するのは、玄関の鍵が壊れて直せない上に、窓も割れている家に住むようなものだと考えます。

XPの後継OS「ビスタ」や「7」は、定期的に配布される更新プログラムによって安全性が確保されています。

Q どうすればいいのですか。